

## 持続可能なさかの森林・林業の確立に向けて －ワークショップでＹＹ話そう－

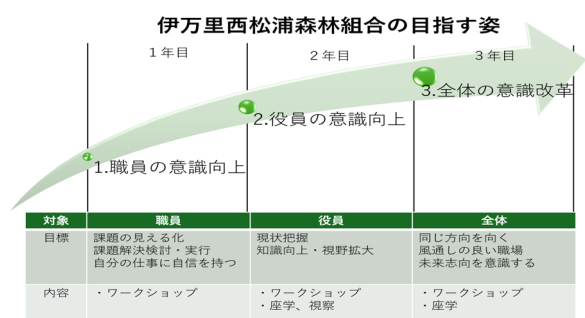
### 1 テーマの趣旨・目的

佐賀県では「森を守る」、「人を育てる」、「木を使う」といった3つの柱のもと、「さかの林業再生プロジェクト」を始動しており、長期的な目標として、持続可能なさかの森林・林業の確立を目指している。

そのような中、伊万里農林事務所管内には、伊万里市、有田町の1市1町で林業経営を行う事業体として、伊万里西松浦森林組合（以下森林組合）がある。伊万里有田地区内の森林面積は県内で2番目の大きさであるとともに、県内唯一の木材コンビナート、さらには県内で唯一、林業系の学科がある高校（伊万里実業高等学校）を有していることから、目標達成のために森林組合が果たすべき役割は大きいと考えられる。

そこで、地元深く根付いた森林組合の経営を安定させることが、「持続可能なさかの林業の確立」を目指すうえで必要と考え、伊万里市、有田町と連携して、「人を育てる（林業事業体の安定経営）」ための取組の一つとして、森林組合においてワークショップを実施することとした。

実施効果確認のため、3年に分けて計画を策定し、森林組合職員（役員、事務職員、技術職員）が、組合の存続・発展のため現状について理解し、共通認識を図ることで、一丸となって課題解決に取り組めるよう意識の改善・向上させることを目的とした。



ワークショップ実施計画の策定

### 2 現状及びこれまでの取組の成果・課題

(1) 事務職員及び技術職員によるワークショップ（取組内容）

令和6年度に第1回目の取り組みとして職員及び技術職員によるワークショップを実施した。ワークショップの概要、目的について説明するとともに、地域林政アドバイザーの吉田氏により他地域における林業の地域連携等の事例紹介を行っていただいた。

ワークショップでは、①「森林組合って何ですか?」、②「森林組合の良いところを挙げてください」、③「当組合をもっと良くするためには何をすればよいですか?」の三つのテーマについて、各自の意見を付箋紙に書いて模造紙に張り、それぞれ意見を書いた方に発言を求める形で実施した。また、全体で13名の参加となったため、3班に分かれて実施することとした。

市町担当者については、各班のファシリテーター及び記録係として参加してもらい、活発な意見交換に寄与してもらった。

(成果)

ワークショップ後に実施したアンケートでは、「自分の仕事と向き合う良い機会になった」、「森林組合の現状や課題について認識できた」との感想が聞かれ、参加者全員から「参考になった」との回答があった。

また、「普段話す機会の少ない人と話せてよかった」との意見もあり、仕事に対する意識や職場の雰囲気改善にもつながるものになったと考える。

市町の担当職員についても、「通常業務では触れ合うことの少ない、技術職員の方と話ができて大変良い機会になった」との感想が聞かれた。



職員ワークショップ実施状況

(2) 森林組合役員によるワークショップ

(取組内容)

令和7年度に組合長を含む森林組合役員を対象としたワークショップを実施した。

役員の中には、令和7年度から就任された方もいたため、森林組合の課題等について理解し経営意識をもつことで、役員として何ができるのか考え、行動するためのきっかけづくりとして、ワークショップに先立ち森林組合の現状について理解してもらうための勉強会を実施した。

ワークショップについては、①「森林組合の役割について」、②「森林組合の将来について」、③「役員としてできること」の三つのテーマについて、前回と同様の形で実施することとした。

今回は全体で8名の参加となったため、2班に分かれて実施した。

(成果)

勉強会において、佐賀県における伊万里西松浦森林組合の役割や現在の状況について把握したこともあり、若干の不安(役員の平均年齢73歳)はあったが、森林組合の役割や将来について活発な議論がなされ、「市町等の行政サイドとの連携が必要」、「森林組合のPRをもっと行うべきだ」等の意見がだされた。

最終的に、2班の意見は一致し、「佐賀県で一番の森林組合になる!」という目標が掲げられた。

(課題)

「役員としてできること」のテーマについて、役員としての共通の取組み事項として取りまとめることが難しかった。森林組合の役員は、伊万里市・有田町の組合員の中から、各地区の代表として選出されており、任期

もあるため、個人の判断だけで決定することに多少の抵抗を感じる役員もおられた。

そのため、役員として地区の森林の状況・組合員の状況等について把握し、森林組合に意見を出せるような環境を作ること(各地区での説明会や勉強会等)も必要と考えられた。



勉強会の実施



役員ワークショップ実施状況

### 3 今後取組むべき内容

ワークショップの実施計画に基づき、令和7年度については、事務職員及び技術職員のワークショップ(2回目)を計画している。内容については、1回目の振り返り、効果の検証を行ったうえで、役員のワークショップ結果を踏まえた内容(佐賀県で一番の森林組合になるには何が必要か 等)で実施予定である。

令和8年度は、森林組合全体でのワークショップを行い、森林組合の目標達成のための取組を、市町と連携・協力しながら進めていきたい。